



## 「養蜂で今を楽しむ！！」

昭和48年卒 教育 長谷川 誠二

生物学専攻だった私は、在学当時、動物行動学に興味を持ち、のちにノーベル医学生理学賞を受賞したカール・フォン・フリッシュの著書を愛読していた。特に、仲間に花蜜のある方向や距離、量などを知らせるミツバチの8の字ダンスには、興味深いものがあった。

あれから46年。不思議な縁で今、静かなブームになっている在来種の日本ミツバチを飼育している。私のように退職後の趣味にと始める人が多いようである。時間と日本ミツバチの住める環境があればお金もあまりかからない。また、おいしいハチミツをいただけるのである。まさに三拍子そろった趣味ではないかと思っている。

ある養蜂場提供のテレビ番組「Bee ワールド」やインターネットや書物によると、人はミツバチから、8「ハチ」の恵みを受けているようだ。①ハチミツ ②ローヤルゼリー ③プロポリス ④花粉 ⑤ハチの子 ⑥蜜蝋 ⑦ハチ毒 ⑧花粉媒介。①から⑤は、主に食品として、⑥は、化粧品の材料、⑦は、リュウマチなどの痛みを和らげる薬品として、そして、⑧は、果物等の結実には欠かせない花粉媒介の役目を果たし、私たちの生活に大いに役立っている。本当に、いいことづくしのミツバチである。

4月・5月は、日本ミツバチの分蜂シーズンで、今は畑仕事をしながら分蜂群を巣箱に取り込むのに躍起になっている。現在のところ、5群を取り込むのに成功している。

日本ミツバチの取り込み方は、巣箱の近くに東洋ランの一種である金稜辺を置いて、その花が発する集合フェロモンを利用しておこなう。その効果は、抜群である。

最初に探索バチがその花のおいを嗅ぎつけ、それから、仲間のハチたちにその情報を伝え、最後に女王バチが巣箱を気に入り、巣箱に入ってくれれば、取り込みは成功というわけである。何千匹ものミツバチが続々と巣箱に入る光景は壮観である。体験した者にしかわからない高揚感がある。残されたひと月余りの期間で何群取り込めるか、今から楽しみである。

スイカ、メロン、ピーマン、レタスなどの植え付けや環境づくりに忙しい毎日を送っている。畑仕事の息抜きに、ミツバチの行動をしゃがみ込み、じっと観察することがある。働き蜂の勤勉さに感心させられるとともに、目の前のミツバチたちの動きやダンスが、大学生時代に読んだ「動物行動学入門」に書かれていた内容を思い起こさせてくれる。

日本ミツバチを飼っている小高い丘の上にある畑からの眺望は、生まれ育った志度の街並みや瀬戸内海が見渡せ、気分爽快である。大学生時代の懐かしい思い出がよみがえってくる。